

岡部研究会「研究論文概要集」(2007年度春学期)について

岡部研究会では、1998年度春学期以降、参加メンバーが学期中に執筆したすべての研究論文の「概要」を学期毎に一冊にとりまとめて刊行しています。本書は、2007年度春学期のものであり、このシリーズの第16号に該当します。そして、この16号は、担当者(岡部)がこの8月末をもって慶應義塾を退職するのでシリーズ最終号になります。

今学期の研究テーマは、従来同様、研究会1が「金融研究」、研究会2が「日本経済研究」でした。本書に収録されている論文は、研究報告会議(2007年7月14~15日に川崎市で実施)において報告され、論文概要はそこでの討議を踏まえて改訂されたものです。

この「概要集」シリーズ全16冊を振り返ってみると、3つの感想を持ちます。第一に、収録された論文(概要)総数が実に342編にも達していることです。岡部研究会在籍者がこの10年間にこれほど多量の研究論文を作成したことに感慨を覚えます。第二に、研究会履修者が採り上げた研究テーマはこの10年間における日本経済の課題の変遷を如実に反映しており、全体として一種のクロノロジーを提供していることです。当初は規制緩和、電子マネー、銀行の経営破綻などに大きな関心が寄せられていたのに対して、最近はM&A(企業の合併および買収)、郵政民営化、年金問題、機関投資家、自由貿易圏の形成などを扱った論文が多くなっています。そして第三は、論文の視点がより研ぎ澄まされ分析レベルも次第に高まってきているうえ論文としての完成度も着実に高まってきていることです。近年の論文の中には、担当者(岡部)との共著論文というかたちをとって学会で発表したものが数件あります。また、研究会優秀論文としてウェブ掲載している論文の中には、国内の研究者によって引用されているものも散見されるようになっていきます。実にうれしいことです。

なお、今学期も、これら論文のうち最優秀と認められたもの(各研究会1編、合計2編)は、従来どおり単独刊行物として湘南藤沢学会より刊行される予定です。従来のそうした岡部研究会優秀論文はインターネット上から全文をダウンロードすることができます。

2007年 7月

総合政策学部 岡部 光明

目 次

研究会 1

マルコフ連鎖モンテカルロ法の理解と実践--TOPIXに対する感応度 の推定- (風岡宏樹) - 6	
M&A の経済効果に関する実証研究 (齊藤裕紀) - - - - - 8	8
無形資産の最適な移転価格算定方法とは (細井陽子) - - - - - 10	10
地方債の現状と問題点--債務不履行リスクの観点から-- (堀江恵理子) - - - - - 12	12
単一金融政策下におけるEU加盟国の金融制度分析 (小林龍一良) - - - - - 14	14
敵対的買収が株価に与える影響 (大矢洋平) - - - - - 16	16

研究会 2

不動産投資における価格決定とリスク分析--リスク中立確率のもとでのエッシャー 変換を用いて-- (木上貴史) - - - - - 20	20
金融環境の変化と中小企業金融における今後の展望 (喜多康平) - - - - - 22	22
日本の貿易における今後の展望 (鈴木麻里絵) - - - - - 24	24
診療報酬決定過程のゲーム理論分析--最適反応動学の導入-- (塚越博基) - - - - - 26	26
預貸率低下の現状について (室田侑嗣) - - - - - 28	28
食料自給率低迷に関する研究 (山本巧) - - - - - 30	30
新しい報酬制度の構築にむけての経済学的分析-スチュワードシップ理論の インセンティブ報酬モデルへの適用 (荒井俊多) - - - - - 32	32
開発途上国の財政と経済成長 (安田憲治) - - - - - 34	34